

デニ・ムクウェゲ医師来日報告書

2019年10月2日～8日

コンゴの性暴力と紛争を考える会



目次

1. はじめに	3
2. ムクウエゲ医師来日中のスケジュール	5
3. 日本外国特派員協会（FCCJ）記者会見	6
4. 国際協力機構（JICA）北岡伸一理事長 表敬訪問	6
5. 東京大学講演会 「世界の平和・正義と女性の人権」	7
6. 関係者とのティーブレイク	10
7. 安倍晋三内閣総理大臣総理表敬	10
8. ASVCC ユースとの会合	11
9. 広島 原爆ドーム、平和記念公園、平和記念資料館訪問	12
10. 被爆者との対談	13
11. 広島 松井一實市長表敬訪問	14
12. 関係者との夕食懇談会	14
13. 広島講演会 「グローバルな平和と正義をめざして」	15
14. 広島 記者会見	17
15. 立命館大学 ムクウエゲ医師名誉博士号贈呈式・記念講演会	19
16. 立命館大学 国際平和ミュージアム訪問	21
17. 立命館大学 学生交流会	22
18. 京都大学山極壽一総長との対談	23
19. 講演会参加者の感想	24
20. メディアによる取材	26
資料1. 外国特派員協会（FCCJ）記者会見 議事録	29
資料2. 東京大学における講演（全文日本語訳）	33
資料3. 広島における講演（全文日本語訳）	40
【謝辞】	45

1. はじめに

2019年10月、2018年のノーベル平和賞を受賞したコンゴ民主共和国（以下、コンゴ）の婦人科医で人権活動家でもあるデニ・ムクウェゲ医師が来日しました。2016年10月の初来日から数えて2度目の来日となりました。今回の来日は、ムクウェゲ医師が現在行っている「平和、正義、女性の権利」に関する世界的なキャンペーン活動の一環です。

来日の目的は4点ありました。1) コンゴで今もなお続く性暴力、紛争鉱物利用とグローバル経済のつながり、および脆弱なガバナンスの問題に対する問題意識を高める、2) 核兵器廃絶と同様に、戦争の兵器としての性暴力を根絶し、加害者の不処罰を根絶することの重要性に対する問題意識を高める、3) 世界平和と安定のための必須条件として、性暴力根絶のための行動ならびに女性の権利向上を呼びかける、そして4) 性暴力、人権、平和、民主主義といった問題に関する、ムクウェゲ医師の意識啓発活動に賛同し、人的および経済的支援を提供したり、研究を行う個人および団体からの支援を得ることです。これらの目的を達成するため、ムクウェゲ医師は日本政府高官や国際協力機構（JICA）理事長と面会し、東京、広島、京都で講演会を行い、メディア取材に応じ、研究者や、コンゴ支援・医療・平和活動に携わる団体、被爆者および学生と意見交換しました。

ムクウェゲ医師が来日中に繰り返し強調していたことは、性暴力被害者への支援は、医療、精神ケア、社会経済支援、法的支援の4つが重要であること、2010年に公開された国連マッピング報告書¹にまとめられた、コンゴにおける最も重大な人権法および国際人道法上の違反行為を再検討し、司法による正義を実現すること、そして世界の女性の人権を尊重する行動をとるべきという点です。

医師の来日を通じて達成したことは、まず下記に関する問題意識が高まったことです。コンゴの性暴力が日本の市民が使用する電子部品と関連しているため私たちと無関係ではないこと、問題を黙認することはそれに加担していることと同様であること、紛争下と平時下において性暴力は人権侵害行為であり、その根絶のために女性・男性がもっと声を上げる必要があることなど。また他者のために、命がけで働くムクウェゲ医師の姿勢に感銘を受けた参加者も多数いました。ムクウェゲ医師の希望だった広島訪問では、性暴力根絶とともに核兵器も廃絶されるべきというメッセージが発信されました。京都の立命館大学では、日本で初めてコンゴ人に名誉博士号が贈呈され、国際社会が取り組むべき課題のトップとして男女平等を掲げ、持続可能な開発目標（SDGs）は女性の参加がなければ実現できないことを強調しました。最後に、国連マッピング報

¹ 1993年から2003年にかけてコンゴで発生した617件の人権侵害について国連人権高等弁務官事務所が調査し、2010年に公表した報告書。

告書が今回、日本のテレビで初めて取り上げられたことも大きな成果であり、ASVCC は 2020 年初めまでに同報告書の要約を和訳し、同報告書の分析とともに公開することを考えています。

その一方で、当初、ASVCC が期待していた成果の一つである、世界中の性暴力根絶と司法制度強化に向けて日本政府のより強いリーダーシップが発揮されることに関しては、今後の政策提言などを通して実現したいと考えています。また、コンゴ、アフリカ政治、紛争、平和学等に関する一般市民の関心を高め、研究者と支援者数を増加させたいと考えています。

最後に、今回の来日にあたって、東京大学、三菱財団、庭野平和財団、高木仁三郎市民科学基金から資金協力、NGO ピースポート、ANT-Hiroshima ならびに立命館大学（順不同）からご支援をいただきましたことにお礼を申し上げます。

コンゴの性暴力と紛争を考える会代表 米川正子

2. ムクウェゲ医師来日中のスケジュール

ムクウェゲ医師は2019年10月2日（水）から8日（火）に東京・広島・京都を訪問し、様々な場においてコンゴの現状を語り、多くの人との意見交換を行った。

(1) 東京

10月2日（水）

- ・成田空港に到着し、ASVCCメンバーの歓迎を受ける

10月3日（木）

- ・日本外国特派員協会（FCCJ）にて記者会見
- ・国際協力機構（JICA）の北岡伸一理事長を表敬訪問
- ・メディア・インタビュー
- ・医療関係者との夕食懇談会

10月4日（金）

- ・東京大学での講演会
- ・アフリカ・コンゴ研究者・支援者とのティーブレイク
- ・安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問
- ・ASVCC ユースとの会合

(2) 広島

10月5日（土）

- ・原爆ドーム、広島平和記念資料館、平和記念公園を訪問し、慰霊碑に献花
- ・被爆者との対談
- ・松井一寛広島市長を表敬訪問
- ・平和研究者・活動家との夕食懇談会

10月6日（日）

- ・広島平和記念資料館での講演会・記者会見

(3) 京都

10月7日（月）

- ・立命館大学の国際平和ミュージアムを訪問
- ・立命館大学にて名誉博士号贈呈式・記念講演会
- ・立命館大学の学生との交流会

10月8日（火）

- ・支援者との会合
- ・メディア・インタビュー
- ・関西国際空港から出国

3. 日本外国特派員協会（FCCJ）記者会見

(1) 日時：2019年10月3日（木）12:00～13:30

(2) 場所：日本外国特派員協会

(3) 内容：①ムクウェゲ医師によるスピーチ（30分、言語：仏英）

②質疑応答（30分、言語：仏英）

(4) 報告

ムクウェゲ医師は、コンゴでの紛争下の性暴力の現状について述べたのち、1999年に設立したパンジ病院における、身体的・精神的・社会経済的・法的支援を柱とする包括的なケアについて説明した。また、国連人権高等弁務官事務所が2010年に公表したマッピング報告書に触れ、加害者の不処罰の問題を訴えた。さらに、ムクウェゲ医師が10年にわたり取り組んできた、性暴力被害者のためのグローバル基金が2019年10月30日に設立されることを述べ、各国や企業の基金への参加を訴えた。スピーチの後は、活発な質疑応答が行われた。



※記者会見の議事録は資料1として本報告書末に掲載

4. 国際協力機構（JICA）北岡伸一理事長 表敬訪問

(1) 日時：2019年10月3日（木）14:00～14:45

(2) 場所：国際協力機構（JICA）本部

(3) 報告

北岡理事長から、ムクウェゲ医師の長年の活動に深い敬意が伝えられた。ムクウェゲ医師からは、性暴力被害者がトラウマを乗り越え、被害以前の状況に回復するための支援の必要性が述べられた。さらに、より多くの性暴力被害者に対する支援の実現に向け、パンジ病院が行う支援の拡充とコンゴ国内の他地域や他国への展開を含めた今後の活動計画について説明した。これらの活動およびムクウェゲ医師が立ち上げたグローバル基金に対する日本からの支持・支援への期待が表明された。その後、性暴力が紛争下で兵器として使われる原因や背景についても意見交換を行い、「人間の安全保障」の観点から性暴力被害者への支援と性暴力の根絶に向けた努力が重要であることを確認した。



※会談の様子は JICA ホームページにも掲載された

https://www.jica.go.jp/information/official/2019/20191007_10.html

5. 東京大学講演会「世界の平和・正義と女性の人権」

(1) 日時：2019年10月4日（金）12:30～15:00

(2) 場所：東京大学 本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

(3) 内容：①開会あいさつ：五神真 東京大学 総長

②主旨説明：藤原帰一 東京大学 未来ビジョン研究センター長

③基調講演：デニ・ムクウェゲ医師「世界の平和・正義と女性の人権」

④パネル・ディスカッション

コメント：隈元美穂子 国連調査訓練研究所（UNITAR）持続可能な繁栄局長

コメント：華井和代 東京大学未来ビジョン研究センター 講師

質疑応答

⑤花束・記念品贈呈

(4) 企画主旨

紛争や自然災害がもたらす社会の不安定化が地域にくらす住民におよぼす影響を理解するため、コンゴで性暴力被害者の救済に尽力してきたムクウェゲ医師を招き講演会を開催する。ムクウェゲ医師からコンゴ東部における紛争下の性暴力の実態を聞くと同時に、紛争解決に尽力する国連機関の専門家を招いてのパネル・ディスカッションを通じて、紛争下の性暴力が発生する構造的要因について理解し、解決に向けた日本からの取り組みを考える機会を提供する。

(5) 開催報告

①開会あいさつ：五神真 東京大学 総長

はじめに五神総長は、ムクウェゲ医師のノーベル平和賞受賞に祝意を述べた。その上で、世界では多くの分断が進行していることへの危機感を共有し、持続可能な開発目標（SDGs）の理念に基づく新たなグローバル・エコシステムを構築する必要性を訴えた。そして、東京大学が地球と人類社会の未来に貢献する『知の協創の世界拠点』となる構想を述べ、ムクウェゲ医師の講演を通じてコンゴで起きている問題の実態を理解する必要性を訴えた。



②主旨説明：藤原帰一 東京大学 未来ビジョン研究センター長

藤原センター長は、現在のSDGsの取り組みが日本国内を重視する風潮となっていることに対する問題提起を行い、大学が国境を超える責任を踏まえて現在取り組むべき課題を考えるという、本講演会的主旨を強調した。



③基調講演「平和・正義の実現と女性の人権」：デニ・ムクウェゲ医師

コンゴでは 1996 年から紛争が続き、死者 600 万人、難民・避難民 400 万人を数え、何十万という女性が性暴力の被害に遭ってきた。ムクウェゲ医師が運営するコンゴ東部のパンジ病院には、毎日平均して 10 人程の性暴力被害者が運び込まれている。被害者に対する支援では、「医療、精神ケア、社会経済支援、法的支援」の 4 つの柱が重要であるが、問題の根本的解決に向けて特に「不処罰の課題」に取り組む必要性を医師は強く訴えた。今日、女性の平等を保障する国際条約は数多く存在する。しかし、現実にはその権利が保証されない事態が各国で蔓延し、性暴力を継続させる原因となっている。



加えてムクウェゲ医師は、2010年に国連人権高等弁務官事務所が発表した、コンゴにおける人権侵害と国際人道法違反に関する 617 件の犯罪を記録した「マッピング報告書」に言及した。犯罪に関わった人物は現在も権力を持ち続ける立場にあり、報告書内に書かれた勧告は何一つ実施されていないという。

最後に、本年 10 月 30 日に設立する「性暴力被害者のためのグローバル基金」について紹介し、人類の危機である性暴力が根絶される社会の実現に向けて、我々が沈黙を破って行動する重要性を強く呼びかけた。

※講演全文（日本語訳）は資料 2 として本報告書末に掲載

④パネル・ディスカッション

パネル・ディスカッション冒頭では、隈元氏が性暴力に対する国連の取り組みを紹介した。本課題に関する安保理決議、および紛争予防や女性のエンパワメントに対する国連の取り組みを説明し、最後に今後の課題の整理を行った。



続いて華井氏は、紛争下の性暴力が発生する構造と現在の日本政府の取り組みを解説した。日本政府の取り組みに関しては、「1. 実態の把握 2. 取り組み成果の検証 3. 解決に向けた議論の不足」を課題として指摘した。

両氏の報告に続き、紛争予防に対する国連の取り組みと性暴力被害者への補償に期待される紛争解決効果に関して、パネリストが議論を行った。ムクウェゲ医師は、国連が性暴力に関する重要な決議を行っても、それを現実に実行する段階に適切な処罰や補償がなされない点が大きな課題であると主張した。そして新たに設立するグローバル基金においては、専門知識や補償手段を持たない国のサポート、および被害者への補償とケアの保障により、これらが被害者が有する当然の権利であることを示す機能を持つことを強調した。

続く質疑応答では、参加者より以下の質問が寄せられた。

Q. ムクウェゲ医師は日本の政府、そして市民に対して何を期待するか。

A. 医師：被害者は皆さんの声を必要としており、不処罰を糾弾する声をあげてほしい。また、マッピング報告書で報告された犯罪に対して適切な処罰が下され、かつ報告書が主張しているコンゴでの人道に対する罪を裁く法廷が実現されるよう、国連安保理に要請し、働きかけてほしい。

Q. 地下資源以外にも、貧困や民主主義の欠如などコンゴの紛争には根本的な原因があるのではないか。

A. 医師：ゴムの採取が行われていた植民地時代から、コンゴの資源が他国に搾取される構造は続いている。1945年頃にはウラン、そして今日ではコルタンが搾取の対象となっている。この搾取構造のために、女性が親や夫や子どもの前でレイプされ、性暴力が兵器となっている。紛争の根本原因は、個人やコミュニティのアイデンティティを破壊する経済システムであると言える。

Q. 政治や経済の世界で女性の地位が低いと言われる日本が、格差解消のためにすべきことは何か。

A. 医師：G7のジェンダー平等諮問委員会の共同委員長を務めた際の勧告と重なるが、まずは女性がより社会で責任を持てるような、斬新的な法律を採択することが重要である。もう一つは、勇気を持って、差別的な法律を削除・撤廃していくことが大切である。

医師は最後に改めて、沈黙を破る必要性を強調した。「性暴力を告訴した女性は、沈黙を守れと言われ、二度屈辱を受ける。性暴力のない社会は、家父長制のデメリットも打破できる。男性も女性も平等のために一緒に闘いましょう」。性暴力を社会の中で可視化し、声をあげていく重要性が共有された講演会となった。

⑤花束・記念品贈呈

閉会に際して、ムクウェゲ医師の招聘に尽力した東京大学大学院の大平和希子さん、およびASVCCユースとして活動する立教大学の喜屋武水樹さんから花束と記念品が贈呈された。

(報告：東京大学教育学研究科修士課程 名倉早都季)

6. 関係者とのティーブレイク

(1) 日時：2019年10月4日（金）15:00～15:30

(2) 場所：東京大学 本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター ファカルティクラブ

(3) 報告

東京大学での講演会終了後、関係者とのティーブレイクを行った。コンゴに関する研究に取り組む研究者、女性の権利擁護に取り組む日本政府担当者、コンゴでの住民支援活動やパンジ基金への支援、日本での啓発活動などに取り組む市民団体、紛争鉱物取引規制に取り組む民間企業の担当者などが、それぞれの活動をムクウエゲ医師に紹介し、意見交換を行った。



7. 安倍晋三内閣総理大臣総理表敬

(1) 日時：2019年10月4日（金）18:10～18:25

(2) 場所：内閣総理大臣官邸

(3) 報告

安倍総理大臣からは、ムクウエゲ医師の訪日に歓迎の意を表するとともに、「紛争で傷つく女性を一人でも減らすため、日本も努力を惜しまない」との旨が述べられた。これに対してムクウエゲ医師から感謝の意が述べられ、コンゴでの活動について紹介した。

8. ASVCC ユースとの会合

(1) 日時 : 2019年10月4日(金) 19:30~21:30

(2) 場所 : 丸ノ内オアゾ内レストラン

(3) 企画主旨

ASVCC ユースはコンゴの性暴力と紛争の諸問題について定期的に勉強会を開催しており、今回コンゴに対する理解を深めるためムクウェゲ医師との会合を開催した。ASVCC ユース・メンバーはあらかじめムクウェゲ医師に対する質問を準備し、医師からの回答を得て今後の活動に繋げることを目指す。

(4) 報告

会合は和やかな雰囲気で行われ、ムクウェゲ医師は時折冗談を交えて場を和ませつつ、ユースの質問に対し真剣な面持ちで回答した。

紛争が終わらない限り性暴力は無くなるのではないのかという質問に対して、医師は真剣な表情で「通常は道徳心があるため性暴力は行われませんが、戦争が起こり、道徳心がなくなってしまうと女性は男性のターゲットになってしまう」と答えた。性暴力というのは決して他人ごとではなく、私たちの生活の中に潜んでいる問題なのだと痛感した。また、「愛」と「怒り」の関係性については、「悪に対する怒りを持ち、愛を持って尊敬し、接する態度が大切」と力強くムクウェゲ医師は訴えた。

友人が性暴力被害者でどう接すればいいのかわからないという質問に対して、ムクウェゲ医師は優しく微笑み、「拒否をせず、愛しているということをその人に伝えることが大切」と答えた。ムクウェゲ医師が、被害を受けた女性に愛を持って接しているということが強く感じられた。

本会合を通して、弱者に寄り添い、また「利他[※]」の姿勢と広い心を持つ人間になっていきたいと誓った。性暴力について語り合う機会を増やしていくことや、日本の性暴力被害者にも目を向けていく必要性を感じ、今後のASVCC ユースの活動につなげていきたい。



(報告 : ASVCC ユース 明治学院大学
馬島亜蘭)

[※] 利他とは、他者の利益を考え幸福を願うこと。ムクウェゲ医師が初来日以来、「好きな日本語」としてあげている。

9. 広島 原爆ドーム、平和記念公園、平和記念資料館訪問

(1) 日時 : 2019年10月5日(土)

(2) 場所 : 広島平和記念資料館および平和記念公園

(3) 広島訪問の主旨

核兵器の使用やその威嚇、そして紛争下の性暴力は国際人道法に反する行為として人類共通の平和への課題である。今回の来日ではムクウェゲ医師から広島訪問の希望があり、NGO ピースボートおよびNPO法人ANT-Hiroshimaの協力によって実現した。

平和記念資料館訪問や被爆者との交流を通じて、核兵器がもたらした人道上の影響についての理解を深めるとともに、平和教育の実践者、および戦争被害の問題に取り組む女性団体等との交流も行い、コンゴと広島・日本の間で継続する協力関係を築いていくことを確認した。

(4) 報告

原爆ドームでは、広島に投下された原子爆弾に関する説明に対してムクウェゲ医師は真剣な表情で耳を傾けていた。原爆の子の像では、地元の学生から折り鶴を受け取り、像に向けて捧げた。広島に投下された原子爆弾にはコンゴで産出されたウランが利用されていたことも伝えられ、ムクウェゲ医師はコンゴと国際社会が密接に関わっているという認識を忘れてはならないと、自身に対して言い聞かせるように述べていたことが印象的であった。

平和記念資料館では館長の案内を受けながら、丁寧に時間をかけて見学した。ムクウェゲ医師は皮膚が垂れた被爆者の写真を見て、医師という職業上、いかに耐えがたい痛みであるかが想像できると述べた。また原爆に含まれているウランの産地国であるコンゴの者として、ウランの偉大な破壊力に胸を痛めた様子であった。資料館の芳名帳への記帳では、「この場所で完全なる恐怖を経験しました。核兵器は廃絶されるべきです。私たちの人間性は、恐怖から守られなければなりません」とムクウェゲ医師は記し、平和に対する決意を表明した。

(報告 : ASVCC ユース 畑中 昂淳)



10. 被爆者との対談

(1) 日時：2019年10月5日（土）14:30～15:30

(2) 場所：広島平和記念資料館メモリアルホール

(3) 内容：笠岡貞江氏の被爆体験証言

(4) 報告

笠岡氏は12歳で原爆の投下に遭い、両親を失った。罪のない人々の命を奪い、生き残った人々も長期的に苦しめ続ける原爆の恐ろしさを、自身の壮絶な経験を交えながら語った。当時の経験を語り続けることは非常に辛いことであるが、核兵器の惨禍の恐ろしさを次の世代に伝え続けることが、亡くなった方々のため、そして世界平和に向けてできる使命であると笠岡氏は語った。笠岡氏に対して、ムクウェゲ医師は「経験を共有していただき、とても感謝している。あなたは本当に強い女性であり心から敬意を表する」と伝えた。

「苦しみというものは国によらず共通の感情であり、コンゴの女性たちも同じような苦しみを抱えて生きている」とムクウェゲ医師は述べ、「被爆経験を伝える中で、どのように人々に対して愛を注いでいるのか」と笠岡氏に尋ねた。この問いに対し、笠岡氏は被爆後にアメリカ人にも治療を受けた経験などを振り返り、日々、国籍問わず周囲の人々から生かされていることに感謝を欠かさないようにしていると述べた。ムクウェゲ医師も、平和でない現実に向けて「怒り」を感じており、そして厳しい現実の中で生きる人々に「愛」を持って向き合うことを大切にしていると語り、私たちは同じ人間性を共有しているということを強調した。

最後に、広島での被爆に屈せず、平和に向けて活動しているあなたのことをコンゴの女性たちにも伝えると笠岡氏に約束し、世界平和に向けて共に行動するとムクウェゲ医師は誓った。

（報告：ASVCCユース 畑中 昂淳）



11. 広島 松井一實市長表敬訪問

(1) 日時 : 2019年10月5日(土) 17:10~17:30

(2) 場所 : 平和記念資料館 国際会議場 3階 応接室

(3) 報告

ムクウェゲ医師からはコンゴ東部での活動について紹介し、松井市長からは、世界平和市長会議の活動を紹介し、都市間での平和構築のための対話を今後も継続していきたいとの旨が伝えられた。



12. 関係者との夕食懇談会

(1) 日時 : 2019年10月5日(土) 18:30~20:30

(2) 場所 : ANA クラウンプラザホテル広島

(3) 報告

ピースポートおよび ANT-Hiroshima の主催により、広島で平和に向けた研究に取り組む研究者、平和教育に取り組む学校教師、原爆被害者の補償や性暴力被害者の救済に取り組む市民活動家が集まり、情報共有と意見交換を行った。



13. 広島講演会「グローバルな平和と正義をめざして」

(1) 日時：2019年10月6日（日）9:30～11:15

(2) 場所：広島平和記念資料館 メモリアルホール

(3) 内容：①主旨説明：川崎哲 ピースボート代表

②開会あいさつ：松井一實 広島市長

③基調講演：デニ・ムクウェゲ医師「グローバルな平和と正義をめざして」

④質疑応答

⑤閉会あいさつ：渡部朋子 ANT-Hiroshima 理事長

(4) 開催報告

①主旨説明：川崎哲 ピースボート代表

本講演会の主催者であるピースボートの川崎代表が、ムクウェゲ医師の紹介と本講演会の主旨を説明した。10月6日は、1996年にムクウェゲ医師が当時勤務していたコンゴ東部レメラの病院が襲撃されて30の方が亡くなった日である。その後コンゴの本格的な紛争が始まり、600万人にもおよぶ死者を出してきた。川崎氏の声掛けにより、来場者がコンゴの犠牲者のために黙とうをささげた。



②開会あいさつ：松井一實 広島市長

はじめに松井市長はノーベル平和賞への祝意を述べ、平和の実現のためには、私たち全員が同じ方向を向いて行動することが重要であると訴えるムクウェゲ医師の言葉に共感を示した。世界平和市長会議の活動を紹介し、被爆地広島市長として非人道的な兵器を廃絶していくことの重要性、活力ある都市の実現におけるムクウェゲ医師の活動の意義などを説明した。



③基調講演：デニ・ムクウェゲ医師「グローバルな平和と正義をめざして」

ムクウェゲ医師は、原爆の犠牲となった広島の人々のために黙とうをささげ、核兵器の非人道性、平和主義の重要性を以下のように語った。広島市は第二次世界大戦において核兵器という恐ろしい兵器のターゲットとなり、人道の原則に反して無差別に多くの人々が亡くなった。日本は戦後、類をみない復興を成し遂げたが、戦争を繰り返さないためには戦争の記憶を風化させるべきではない。その点、広島市は平和記念資料館を整備し、また戦争を二度と繰り返してはいけないというメッセージを地方レベルから世界レベルまで幅広く発信する活動を続けており素晴らしい。このように平和というのは我々一人ひとりの実践によって維持されるものである。核兵器が

使用されるリスクが依然として存在し、ナショナリズムとポピュリズムが再び台頭する今日、それらを押しとどめる壁に我々はならなくてははいけない。



次に、コンゴの紛争と性暴力の問題、その解決のために必要な行動について以下のように解説が行われた。コンゴ東部で婦人科医として働くなかで、もう一つの恐ろしい兵器、性暴力を目の当たりにしてきた。

紛争下での性暴力は大規模で組織的に整然と行われるという特徴がある。このような性暴力によって、武装勢力はコストをかけず効果的にコミュニティを破壊することができる。コミュニティを機能不全に陥れ人々が立ち退かせることで武装勢力はその土地の鉱物を違法採掘できる。性暴力の被害に遭った女性たちのためには、通常の医療行為だけでは不十分であり、精神的ケア、社会経済的支援、法的な支援をともなった包括的支援が必要である。また、性暴力を予防するには第一に教育、つまり子どもたちにポジティブな男性性を教え、男女の平等を順守できるような新しい世代を育てること、第二に司法が適切に機能し不処罰をなくすこと、つまり性暴力の加害者は適切に処罰される社会に変えていくことが必要である。さらに、被害者に対する補償も重要であり、そのような立場から、ノーベル平和賞の共同受賞者であるナディア・ムラド氏と一緒に紛争地の性暴力被害者のためのグローバル基金を設立する予定である。

最後に、戦争のない世界を作るために共に行動していくこと、人間の尊厳を再確認しすべての人のために平等で自由な世界を目指していくことが呼びかけられた。

※講演全文（日本語訳）は資料3として本報告書末に掲載

④ 質疑応答

講演後には以下のような質疑応答が行われた。

Q. 不処罰をなくす重要性を指摘されていたが真に処罰されるべき人は誰だと思うか。

A. 医師：国連のマッピング報告書を読めば、誰に対する処罰が必要か分かるはずなので読んで欲しい。

Q コンゴ紛争は何をめぐる紛争なのか、民族紛争なのか。

A. 医師：民族間の紛争でも宗教間の紛争でもなく、鉱物資源をめぐる経済的な紛争である。

Q. 日韓の慰安婦問題に対してどう考えているか。

A. 医師：日韓の政治的な関係の成熟を信じており、両国が対話と交渉の中で解決できると考えている。

Q. コンゴ東部からコーヒーを輸入する仕事に関わっており、コンゴ東部の農村の現状について教えて欲しい。

A. 医師：コーヒー栽培はコンゴ東部における重要な産業でパンジ病院の女性たちの経済的自立の手段にもなっている。しかし、武装勢力が存在すると性暴力のリスクから女性が農作業に出られないなど、紛争がコーヒー栽培にとっても大きな障害になっている。

⑤ 閉会あいさつ

ANT-Hiroshima の渡部理事長よりムクウェゲ医師の被爆者の思いに対する深い理解、また、その思いを世界に伝える役割を担おうとするムクウェゲ医師の姿勢に感謝が伝えられ、記念品が贈呈された。

(報告：国立情報学研究所 大石晃史)



14. 広島 記者会見

(1) 日時：2019年10月6日(日) 11:15~11:35

(2) 場所：広島平和記念資料館 メモリアルホール

(3) 登壇者：デニ・ムクウェゲ医師、川崎哲（ピースポート代表）、渡部朋子（ANT-Hiroshima 理事長）、米川正子（ASVCC 代表）

(4) 開催報告

講演会後に、同会場にて地元メディアが多数出席する記者会見が開催された。

まず、広島訪問を希望した理由と、広島への想いを聞かせてほしいとの質問に対して、ムクウェゲ医師は、本などで広島のことを勉強してきたが、広島の人々の苦しみをもっと深いところで理解したいという想いを持って訪問したと伝えた。実際に広島を訪れて、原子爆弾というあまりにも残忍な暴力にショックを受け、苦しみは人類共通であることを改めて感じたと述べた。一方で、特に笠岡氏の話からは、加害者を赦しと愛を持って生きる姿勢に希望を感じ、①このような暴力をもう二度と繰り返してはならないこと、②希望を持って核兵器も紛争下の性暴力もないより良い世界を築く必要性という2つのメッセージをコンゴへ持ち帰ると述べた。

また、広島でいう平和は「核廃絶」を意味することが多いが、ムクウェゲ医師の考える平和とは何か、また、広島での平和との共通点・相違点は何かという質問が出た。これに対し医師は、社会、心理、経済を破壊する兵器としての性暴力の残忍性を改めて伝えた。また、核兵器は、相手

を人間として見ず、支配し、モノのように扱う恐ろしい兵器であることを述べた。人が人の痛み
に共感できなくなった瞬間に戦争が始まってしまうのであり、そのような人間性の欠如をなくす
という点では、私たちの目指す平和は同じであると説明した。

最後は、広島の人々へのメッセージを聞かれ、まずは、核兵器をなくすための活動を続けてい
る広島の人々への感謝と敬意を伝えた。地球上から核兵器をなくすという闘いは、広島の人々だ
けではなく、地球で暮らす人みんなが取り組み、支配者たちに対して「核兵器はいらない」とい
う強いメッセージを突きつける必要があると述べた。ムクウエゲ医師自身も「声」となり、広島
の人々のメッセージを代弁していきたいと伝えた。



15. 立命館大学 ムクウェゲ医師名誉博士号贈呈式・記念講演会

「暴力のない世界の実現と女性の人権～SDGs の視点から」

(1) 日時：2019年10月7日（月）14:40～16:10

(2) 場所：立命館大学 衣笠キャンパス 以学館1号ホール

(3) 内容：①開会あいさつ・司会：上野隆三 立命館大学 副学長

②学長あいさつ：仲谷善雄 立命館大学 学長

③名誉博士号贈呈

④記念講演：デニ・ムクウェゲ医師

「暴力のない世界の実現と女性の人権～SDGs の視点から」

⑤質疑応答

⑥花束贈呈

(4) 企画主旨

コンゴにおいて性暴力被害に遭った女性の包括的なケアに取り組むとともに、アフリカにおける資源採掘産業の持続的な発展のための規制強化、作業現場の女性や児童労働の改善に尽力してきたデニ・ムクウェゲ医師に対し、立命館大学は名誉博士号を贈呈することを決定した。今回の記念講演では、教職員や学生、一般市民に対して、名誉博士号授与への感謝とともに、コンゴの現状、医師の活動、医師の主張等を伝えた。

(5) 開催報告

学長あいさつ：仲谷善雄 立命館大学 学長

仲谷学長によるあいさつでは、ムクウェゲ医師に名誉博士号を贈呈できることを光栄に感じ、加えて医師がミュージアムを見学したことは名誉なことであると述べた。また、ムクウェゲ医師の取り組みは、立命館が推進するSDGsの取り組みを高い次元で具体的な行動に移しているものであると評価し、立命館に集う学生・教職員が医師の実践からさらに学び、社会が抱える課題の解決に取り組むことを誓った。



名誉博士号の贈呈

ムクウェゲ医師が壇上に招かれ、学長からムクウェゲ医師に名誉博士号が贈呈された。

ムクウェゲ医師講演：「暴力のない世界の実現と女性の人権～SDGs の視点から」

コンゴでは豊かな鉱物資源を奪うために紛争が続いており、人びとに恐怖を植え付け、安く鉱物を手に入れる兵器として性暴力が蔓延し、社会の基盤を破壊している状況を医師は説明した。パンジ病院では、「医療、心理、社会経済、法」という4つの柱で被害者の支援を行っており、

本支援プログラムは中央アフリカやイラクにも今後適用される予定である。この活動は、女性の尊厳回復のみではなく、貧困対策、子どもの教育、健康、男女平等、平和実現という、6つのSDGsを達成するものである。深刻な被害に遭ってもなお立ちあがろうとする女性の力は尊く、私たちは勇気づけられると医師は語った。



鉱山の違法支配、不処罰、男女の不平等がコンゴにある。世界の3分の2のコルタンがコンゴに埋蔵されているのに、兵士が略奪してしまう現状では、鉱山資源の透明取引が必要である。ゴムやウラン、スズ、タングステン、コバルトなど世界の産業に重要な資源がコンゴにあるのに、コンゴ国民に恩恵をもたらしたことはない。紛争鉱物の取引を規制するドッド・フランク法やEUの法も、サプライチェーンのすべてにあたるものではなく、世界的な消費者・生産者などの協力が必要である。日本企業がクリーンで透明な資源を管理、使用することは重要である。

不処罰の横行により紛争下での性暴力が拡大している現状では、加害者を訴追する義務がある。国際刑事裁判所の設立から20年近くが経ち、紛争の加害者が裁かれるようになったことは評価する。しかし、コンゴに関しては2010年に発表された国連のマッピング報告書において617件の犯罪が詳述され、再発防止プログラムが提案されているにもかかわらず、現在まで何も対処されていないことが問題であると指摘した。25年前から犯罪を起こしている軍の指導者、政治の中心にいる人が処罰されておらず、ぜひマッピング報告書を活用してほしいと医師は強調した。

SDGsは女性の参加がなければ実現できない。先のG7で議長国フランスは、国際社会が取り組むべき課題のトップとして男女平等を掲げた。性暴力には社会的文化的なバリアはなく、誰にでも関わる問題である。性暴力のないより良い世界をつくることは夢ではなく、より尊厳があり公平で平和な社会の実現を共に目指そうと、ムクウェゲ医師は力強く語りかけた。

質疑応答

Q. コンゴの女性は性暴力のトラウマをどのように乗り越えていくのか。また、被害女性は男性に対してどのような感情を持つのか。

A. 医師：地域を支配するために非常に暴力的なレイプが行われる。男性が女性に「人間ではない」と伝えようとするため、被害者は体と精神がバラバラになって完全に崩れてしまう。トラウマを受けた人に対して心理的な治療を行うと、被害者は人間性を取り戻していき、自分自身が好きになったと言い社会に復帰していく。心理的治療がいちばん重要である。

Q. 私は高校生で、コンゴの性暴力について調べている。被害者は、地元の人々からどのような差別を受けるのか？

A. 医師：加害者は人間性を失わせるために、人前で、かつ集団で性暴力を行っており、生殖器に対する拷問もある。加えて夫や母親、周囲の人がその現場を見ることにより、被害者を守れなかったとトラウマを受ける。そして社会は、被害に遭った女性は「純粹」ではないと感じてしまう。女性は誰かの持ち物と考えられており、その持ち物が不浄だと感じた時、男性は女性を受け入れなくなる。ある国では、性暴力を受けた女性は純粹さを失っており女性としての価値がなくなつたと考えられ、被害者は家の名誉のために石を投げられて殺されてしまう。男性はそうされないのに女性であると言うだけで排除されてしまう。このような古い価値をなくさなくてはならない。

(報告：ASVCC 華井 裕隆)



16. 立命館大学 国際平和ミュージアム訪問

(1) 日時：2019年10月7日(月) 10:00~11:30

(2) 場所：立命館大学 国際平和ミュージアム

(3) 報告

名誉博士号贈呈式・記念講演会に先立ってムクウェゲ医師は立命館大学国際平和ミュージアムの常設展を参観し、松原洋子副学長、吾郷眞一館長、君島東彦教授と懇談した。日本の戦争経験のみならず、現在も続く世界各地の地域紛争、飢え、貧困、人権抑圧、環境破壊などの多様な人類の危機を取り上げた展示を見学した後、「このミュージアムは平和にとって重要な博物館です。学術的・科学的な基盤に支えられ、公平性が保たれています。正義なくして、永遠の平和はありえません。正義を推進し、平和のために共にがんばりましょう」とのメッセージを記した。



17. 立命館大学 学生交流会

(1) 日時 : 2019年10月7日(月) 16:30~17:30

(2) 場所 : 立命館大学 衣笠キャンパス 図書館1階カンファレンスルーム

(3) 報告

松原洋子副学長のあいさつ後、ジャン＝クロード・マスワナ経済学部教授より主旨説明、および人権活動家としてのムクウェゲ医師の活動が紹介された。その後、立命館大学および立命館アジア太平洋大学の学生40名の内9名から質問があがった。主な質問と回答は以下の通りである。

活動を始めた際の苦勞や、家父長制の根強いコンゴにおいて女性の人権擁護を開始した理由に対する質問に医師は、「人生で大事なことは、いつも自分のことだけを考えず、他人のことを考えることである」と強調した。その上で、牧師である父の言動をきっかけにまずは小児科医を目指し、後に女性への治療の必要性も感じて産婦人科医に、そして戦争にともなう性暴力被害者の多発によって現在のような活動に至った経緯を話した。

性暴力によって生まれた子どもに対する地域からの扱いやトラウマに関する質問には、そのような子ども達が父親の罪を償わされることで子どもの中に暴力が蓄積される危険性を警告した。

兵士による性暴力加害の理由に関する質問には、家庭における男女不平等の教育による影響を指摘し、男女平等の教育が効果的であると語った。慣習的な女性差別への対処についての質問には、女性の人権が法律レベルで守られるためには医師としてだけでなく活動家であることの重要性を強調し、またこの質問を行った学生が男性であることに嬉しさを表明した。女性だけでなく、男性にも本課題に積極的にかわりを持ってほしいというメッセージであった。

身近な性暴力被害者の援助方法については、被害者が被害を告発できるように、社会・心理・法律等の包括的なサポートシステムが必要であると訴えた。

日本在住者としての紛争鉱物排除への協力方法についての質問には、消費者として企業に紛争フリーの鉱物を使用することを要求する力があると述べた。

最後に、医師は男女平等の未来実現への希望と当企画への感謝を述べ、立命館大学の森島朋三理事長より金閣寺の有馬頼亭住職による「利他」の書が贈呈された。

(報告 : ASVCC 田中志歩)

18. 京都大学山極壽一総長との対談

(1) 日時 : 2019年10月8日(火) 12:30~13:10

(2) 場所 : 京都ホテルオークラ

(3) 報告

山極壽一京都大学総長は人類学および霊長類学研究の第一人者であり、コンゴの南キヴ州カフジ・ビエガ国立公園におけるゴリラの研究をきっかけに、ゴリラの保護活動ならびにゴリラの生息地を守るための地元住民の教育、支援に尽力している。ムクウェゲ医師の来日に際して山極総長をはじめとする京都大学の人類学およびアフリカ学の研究者が医師との面会に訪れた。

対談で山極総長は研究機関である京都大学がムクウェゲ医師の人道支援活動に対しどのような援助を行うべきか、ムクウェゲ医師と熱心に議論を交わした。心理的トラウマを抱える性暴力被害者の調査、公衆衛生に関する研究を通じての支援、医師や看護師の育成等、具体的な支援内容、方法について話し合った。



19. 講演会参加者の感想

(東大・広島・京都のアンケートをもとに作成。年代は回答があったもののみ記載)

コンゴを取り巻く課題について学んだ点

- コンゴの性暴力が我々の使用する電子部品と関連しており、我々にとっても身近な問題(多数)
- 問題に対する消極的な関わり方は、その問題に加担しているのと同義である(多数)
- 現代の国際社会においても、未だ加害者が不処罰であるという事実が存在すること
- 紛争も性暴力もグローバル社会の課題であり、実は自分事でもあること
- 女性として生まれただけで差別を受けたり、人権を侵されることがいかに暴力的なことか

課題解決に対する男性の参加の必要性について学んだ点

- 男性側も声をあげていくことの必要性(30代女性)
- 戦時性暴力は平時の性暴力の延長上にあり、それは男女ともに解決していくべき(70代女性)
- 日本でも男女が納得し、折り合える社会にしていくべきであること(30代女性)

ムクウェゲ医師の人間性や姿勢から受けた影響

- ムクウェゲ医師の勇気ある行動に心が動かされた(多数)
- 患者の治療にとどまらず、問題を世界に発信し、改善に尽力する姿に感銘を受けた(70代女性)
- 自分の問題でなくても、当事者意識を持って解決に取り組む姿勢に感銘を受けた(20代女性)
- 医療人の一員として、被害者の選択肢を増やすことが大事と仰っていたことが印象的(20代女性)
- 医師としての役割だけでなく、向き合う一人ひとりを理解しようとする姿勢に感動(50代女性)
- 自らも命の危険にさらされ恐怖もあると思うが、それでも立ち上がっていることを深く尊敬した

講演参加者からの共感の声、ムクウェゲ医師にメッセージ

- 女性たちを一生懸命救っている医師に、医者として心から感謝を伝えたい(30代男性、医師)
- 消費者の責任として、製錬業者からのサプライチェーンによるクリーンな製品かを調べて購入したい(50代男性)
- 様々な犯罪の不処罰に声を上げていきたい。コンゴの状況に常に耳を傾けて行動したい(40代男性)
- 8カ月の赤ちゃんがレイプされ、少年兵が暴力に加担するというコンゴの現状を、自分の子供らに伝えたい(40代女性)
- 日本の性教育分野で働く者として、少し領域は違えど、医師のような人になりたい(20代女性)
- 私の父もコンゴ人で、現地で物資支援や教育、医療に携わっていたので、同じ志の方が国際的な場で活躍し、同国にスポットがあたることを嬉しく思う(20代女性)

- 地方都市に住んでいて、報道されていることも遠くの出来事のようなようだったが、このような機会に触れることができ何もできないと思っていた自分にも希望を持つことができた(50代女性)
- 臨床にとどまらず、平和と正義により被害者を救済し、被害を防ぐという考えに深く共感した
- 学生のうちに勉強をたくさんして、平和な世界への第一歩へ繋がられるように頑張ろうと思う
- 私自身が性暴力被害の経験者で、今回のレイプ被害者と同じ目線で医師の話聞くことができた
- 文化や言葉が違って同じ思いを共有した仲間が世界中にいることを胸に刻み、行動に繋がりたい
- 教育を受ける権利が一番大切なこと。コンゴの子供全員が近い将来教育を受けられるよう祈りたい
- 性暴力や女性に対する暴力は、人類の発展や平和を妨げていることを改めて認識できた。性暴力をなくし、すべての人を尊重する社会の実現は簡単ではないが、性別を問わず私たちが意識を変えて行動することで実現できるという医師の言葉に共感した
- 日本に住む我々に何ができるのか、自分は何から行動すべきかについて考えるきっかけをもらった
- 日本の大学による医師への名誉博士号の授与は、日本人として誇らしい。感動的な授与式・講演会

ムクウェゲ医師の広島訪問と、原爆・核という問題について

- 私は被爆2世の助産師で、平和公園という特別な場所で先生と共に祈り、講演を聞いたことは幸せ
- 私は広島の高校生として核兵器廃絶の署名キャンペーンをしているが、医師に励まされた
- 交渉と対話、そして記憶を後世に残すことを大切に、平和の道を地道に歩み続けたい

20. メディアによる取材

ムクウェゲ医師は、東京、広島での記者会見に加えて、各種メディアの取材に応じた。来日に関する記事掲載やテレビ・ラジオ放映の情報を下記にまとめる。

掲載（放映）日	掲載（放映）日	掲載（放映）日
2019-08-24	ムクウェゲ医師 10月来日 ノーベル平和賞	読売新聞 広島版
2019-09-25	コンゴの医師、来月広島で講演 昨年ノーベル平和賞を受賞	朝日新聞 広島版
2019-09-20	平和賞の医師が語る 紛争下の性暴力など 来月6日、広島・原爆資料館 / 広島	毎日新聞 広島版
2019-09-23	紛争地の性被害 目を向けて ノーベル賞を受賞 コンゴの医師講演	中国新聞
2019-09-26	平和賞の産科医が被爆者面会へ 10月上旬訪日、各地で講演	宮崎日日新聞など（共同通信）
2019-10-03	「女を修理する男」・ノーベル平和賞ムクウェゲ医師来日	yahoo ニュース（下村靖樹）
2019-10-03	性暴力被害者の救済基金設立 ノーベル平和賞医師ムクウェゲ氏	福井新聞など（共同通信）
2019-10-03	一人でも世界変えられる = ノーベル平和賞のムクウェゲ医師	時事ドットコムニュースなど（時事通信）
2019-10-03	ノーベル平和賞受賞の医師 性暴力被害を受けた女性への支援期待	NHK NEWS WEB
2019-10-03	ノーベル賞受賞のムクウェゲ医師 紛争下の性暴力根絶「日本も出資を」	毎日新聞
2019-10-03	Mukwege: "Protecting Women from Sexual Violence in War and Promoting Human Rights"	日本外国特派員協会（Youtube チャンネル）
2019-10-04	ノーベル平和賞受賞のムクウェゲ 医師が都内で会見	ANN ニュースなど（Youtube チャンネル）
2019-10-04	「性暴力根絶 日本も出資して」 ムクウェゲ医師、国際基金設立へ	毎日新聞 東京版
2019-10-04	ノーベル平和賞受賞のムクウェゲ医師が都内で会見	テレ朝 NEWS
2019-10-04	ノーベル平和賞のコンゴ医師、性暴力被害救済の基金設立へ	日本経済新聞
2019-10-07	北岡理事長がコンゴ民主共和国バンジ総合病院のムクウェゲ医師と会談	独立行政法人 日本国際協力機構
2019-10-04	性暴力告発、男性も加わろう = ノーベル平和賞のムクウェゲ医師講演	時事ドットコムニュースなど（時事通信）
2019-10-04	ムクウェゲ医師 「性暴力を戦争の武器とすることは人類の恥」	NHK NEWS WEB
2019-10-04	ノーベル平和賞のムクウェゲ医師 都内で講演「ともに行動を」	NHK NEWS WEB
2019-10-04	特集「ノーベル平和賞 受賞から1年 世界の“変化”は」	NHK 総合テレビ「ニュースウォッチ9」
2019-10-04	ムクウェゲ医師による安倍総理大臣表敬	外務省
2019-10-04	ノーベル賞医師と面会 = 安倍首相	時事ドットコムニュース
2019-10-05	首相動静 4日	朝日新聞
2019-10-05	ノーベル平和賞のムクウェゲ医師 広島訪問で犠牲者に祈り	NHK 広島
2019-10-05	Congolese Nobel Laureate Mukwege Visits Hiroshima	nippon.com
2019-10-05	笠岡さんと握手するムクウェゲ氏	時事ドットコムなど（時事通信）
2019-10-05	献花するデニ・ムクウェゲ氏	時事ドットコム
2019-10-05	ノーベル平和賞のムクウェゲ医師 平和公園訪問	中国放送
2019-10-05	ノーベル賞医師が原爆資料館訪問	中国新聞

2019-10-05	ムクウェゲ氏「深い痛み感じた」=原爆資料館訪問、被爆者とも対話-広島	時事ドットコムニュース
2019-10-05	ノーベル平和賞のムクウェゲ氏が広島の原爆資料館を初訪問 被爆者と面談	毎日新聞
2019-10-05	「苦しみに国境ない」ムクウェゲ氏、被爆者と面会	毎日新聞
2019-10-05	Nobel Peace Prize winner Mukwege visits Hiroshima	NHK WORLD
2019-10-05	ノーベル平和賞受賞のムクウェゲ氏 被爆者と対談	ホームテレビ
2019-10-05	ノーベル平和賞 デニ・ムクウェゲ氏が原爆資料館を訪問	テレビ新広島
2019-10-05	平和賞医師、原爆慰霊碑に献花 広島、被爆者と面会も	奈良新聞など（共同通信）
2019-10-05	Congolese Nobel Laureate Mukwege Visits Hiroshima	Jiji PRESS
2019-10-05	Dr. Mukwege at the Nobel Peace Prize praying to the victims in Hiroshima visit	NHK News Teller Report
2019-10-06	Nobel Peace Prize winner Mukwege visits Hiroshima NHK WORLD-JAPAN News	NHK World
2019-10-06	ムクウェゲ氏広島訪問	朝日新聞 大阪版
2019-10-06	原爆慰霊碑に献花 ノーベル平和賞・ムクウェゲ医師 / 広島	毎日新聞 地方版
2019-10-06	「苦しみに国境ない」ムクウェゲ氏、被爆者と面会	毎日新聞 東京版
2019-10-06	Nobel Winner Mukwege Warns against Nuclear War in Hiroshima	nippon.com
2019-10-06	被爆者と対話「声を届ける」ムクウェゲ氏、広島へ	東京新聞
2019-10-06	ノーベル平和賞医師、原爆死没者に献花...「深い痛み感じた」	読売新聞
2019-10-06	ノーベル平和賞 デニ・ムクウェゲ氏が原爆資料館を訪問	テレビ新広島
2019-10-06	核戦争への警戒常に必要 = ノーベル平和賞の医師訴え-広島	時事ドットコムニュースなど（時事通信）
2019-10-06	ノーベル平和賞医師、広島で講演「核なき世界夢見よう」	共同通信など
2019-10-06	ノーベル平和賞 ムクウェゲ医師「無関心も破壊力」 広島市	中国放送
2019-10-06	（社説）ムクウェゲ医師 広島で講演	朝日新聞
2019-10-07	コンゴの性暴力に関心を ノーベル平和賞のムクウェゲ氏、広島で講演	中国新聞
2019-10-07	N 賞医師「広島の声を代弁する」	NHK 広島
2019-10-07	「核、性暴力ない世に」ノーベル平和賞、ムクウェゲ氏講演 広島 / 広島	毎日新聞 地方版
2019-10-07	核兵器、性暴力ない世界を	読売新聞
2019-10-07	ムクウェゲさん 広島で核廃絶訴え	東京新聞
2019-10-07	「核への警戒常に必要」広島で平和賞の医師訴え	しんぶん赤旗
2019-10-06	ノーベル平和賞受賞のムクウェゲ医師が講演 広島市内	広島ホームテレビ
2019-10-08	お好みワイドひろしまノーベル平和賞受賞コンゴの医師が初来広、感じたこととは？	NHK お好みワイドひろしま
2019-10-08	「遠い紛争を知ってほしい」医師の願い 広島	中国放送
2019-10-09	平和な世界へ、一緒に行動を ムクウェゲ医師、広島で講演 / 中国・共通	朝日新聞大阪朝刊 広島1・2 地方
2019/10/09	性暴力「兵器と変わらない」	朝日新聞
2019-10-07	コンゴの平和賞医師が警告 先進国繁栄の背後に性暴力	共同通信など
2019-10-07	コンゴの勝者は性暴力の終結を呼びかける（仮訳）	Chinatimes.com

2019-10-08	平和賞の医師に名誉博士号 立命館大で贈呈式	朝日新聞 大阪版
2019-10-08	ノーベル平和賞の婦人科医に名誉博士号 立命大	朝日新聞デジタル
2019-10-08	2018 ノーベル平和賞受賞者 立命大名誉博士に	関西テレビ
2019-10-08	コンゴ民主共和国のデニ・ムクウェゲ医師（2018年ノーベル平和賞受賞者）へ名誉博士号を贈呈	Sankei Biz
2019-10-09	「性暴力被害に関心を」 ノーベル平和賞・ムクウェゲ氏講演 立命館大 / 京都	毎日新聞 地方版
2019-10-09	Japon : le titre de Doctor Honoris Causa décerné à Denis Mukwege à l'université de Ritsumeikan	African Shapers.com
2019-10-09	ノーベル平和賞受賞から1年・ムクウェゲ医師の訴え	NHK BS1 「国際報道2019」
2019-10-10	(タイトル不明)	NHK ラジオ第一 『マイあさ!』
2019-10-11	来日 2018年ノーベル平和賞 性暴力と闘う医師 ムクウェゲ医師 “世界はつながっている”	NHK 総合テレビ 「おはよう日本」
2019-11-01	デニ・ムクウェゲ医師が来日公演 ノーベル平和賞受賞者「ジェンダー平等の意識を社会に」	毎日フォーラム
2019-11-05	On a Mission to Fight Rape as War Weapon	NHK WORLD NEWSROOM IN TOKYO
2019-11-14	On a Mission to Fight Rape as War Weapon	NHK WORLD NEWSLINE IN DEPTH
2019-12-22	こころの時代 共犯は沈黙 闘う医師 デニ・ムクウェゲ	NHK E テレ
2019-12-27	The Fight Against Wartime Rape	NHK WORLD - JAPAN Backstories
2020-03-01	NPT 半世紀 ムクウェゲ医師特別寄稿「不戦の希求は国を超え」	中国新聞

資料 1. 外国特派員協会（FCCJ）記者会見 議事録

※ASVCC による日本語仮訳

(1) ムクウェゲ医師のスピーチ

コンゴ民主共和国は過去 23 年、紛争が続いている。その紛争の特徴は、女性の体が紛争の兵器として使われていることである。1999 年に妊婦をケアするためにパンジ病院を設立したが、想像できないことが起きた。最初に治療した患者の女性は 7 人にレイプされ、かつ性器が撃たれていた。このような残虐な行為を見たのは初めてだった。これは正気の沙汰ではないと思ったが、その考えが間違いと分かった。なぜなら、私たちはそれ以降、約 55,000 人の女性を治療してきたからだ。その女性らは性的暴行を受けていただけでなく、性器は銃や鈍器などで傷つけられていた。こうしたレイプが公然と夫や父親たちの目の前で行われ、尊厳を失っている。その精神的と社会的な影響を想像できるだろうか。

最初は医療を施していたが、それだけでは彼女たちが人生を取り戻し、コミュニティに再編入されるには足りなかった。私たちの病院では、包括的なケア—医療ケアと精神的ケア—を行ってきた。だが生存者が回復した後に、彼女たちが性暴力を受けたために捨てられたコミュニティに戻り、経済的に自立できるようにする必要がでてきた。彼女たちがコミュニティの負担とならないように。身体的、精神的、経済的という 3 つの柱を通じて、女性たちが立ち直ったとき、尊厳の問題に直面し、その後、正義と補償の問題が立ち現れた。今は協力してくれる弁護士たちがいて、女性たちの訴訟やその闘いを支えている。

包括的なケアの一環として、ワンストップ・センターというシステムを立ち上げた。被害に遭った女性たちが一回だけ話をすれば、それだけでケアが受けられるようにする場所である。

この包括的アプローチを通して被害者の人権を保障している。ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカの紛争地域でも、レイプは「敵」を打ち負かす目的のために、紛争当事者によって利用されてきた。

私たちの闘いにおいて、「レイプの中心地」と呼ばれているコンゴでは、国内においても国際的にも、法律や人権の面でほとんど何も実行されていない。国連人権高等弁務官がコンゴで調査を行い、2010 年に「マッピング報告書」を公表した。この報告書で、「虐殺」の罪を含む、617 件以上の戦争と人道に対する罪が明らかになった。残念なことに、コンゴでは、第二次世界大戦以降、世界最多の紛争犠牲者を生んだ。1996 年に開始したコンゴ紛争で 600 万人以上が亡くなり、400 万人が難民・避難民となった。

マッピング報告書がいくつか明確な提案をした中で、最も重要なのは混合法廷の設立を通じて正義をつらぬくことである。被害者が真実を語る必要がある。被害者の身に何が起きたのか、なぜそのようなことが起きなければならなかったのか。被害者と加害者の和解のためには真実が必要で、真実が究明された時に初めて正義が実現し、和解がなされ、紛争の終結が訪れる。しかし、マッピング報告書が公表されて約 10 年が経つにもかかわらず、提案は 1 つも実行されていない。

行く先々で、被害者は不処罰の終焉を要求したが、政府は性暴力を重要な問題として捉えなかった。だからこそ、私たちがイニシアティブをとる必要があった。

この10年間、国際社会に対して性暴力被害者のための補償を訴えてきた末に、グローバル基金の設立に向けて動き出した。そしてこの基金は10月30日、ニューヨークにてノーベル平和賞の共同受賞者である、ナディア・ムラド氏とともに設立する。

最後に、ナディアとともにこの1年間取り組んできていることを紹介したい。私たちはG7の男女平等諮問委員会の共同議長として、法律を整える国際的な取り組みが必要であると訴えてきた。G7が男女平等を実現することによって、世界に手本を示して欲しい。この諮問委員会では、G7の首脳たちに79の先駆的な法律を示し、その中から自国で有益なものを選び取るように提言した。また、今日でもG7各国の中に差別的な法律があり、そうした法律を撤廃するように要求した。

これらの79の法律は4つのグループに大別される。まず1つ目は、女性に対する性暴力に終止符を打つもの。2つ目は、女性への教育の提供、健康と生殖への権利を与えるもの。3つ目は、女性に経済的自立へのアクセス、特に雇用を得るようにするもの。最後に、政治活動への女性の参加を推進するものである。

(2) 質疑応答

Q. 10月30日に設立するグローバル基金について、どこの国が協力し、誰が主導し、どのくらいの額が設定されているのか？

A. 医師：参加国はほとんどが国連加盟国であるが、支援を希望している民間セクターにも参加を呼びかけている。フランス（600万ユーロ）、EU（200万ユーロ）、ドイツなどから支援を得ている。今回の来日中に日本にも参加を呼びかけたいと思っている。私たちは集まった資金を性暴力被害者の支援に役立てるよう責任を持って行いたい。

基金の管理は加盟4か国から成る評議会が行う。この評議会によって資金の用途を決める基準を定める。その評議会のメンバーについては輪番制にする。国連機関、性暴力生存者、市民社会、民間セクターもそのメンバーに含める。

私たちは2つのタイプの国があると思う。1つ目は、補償を提供したいが、どのように提供したらいいかわからない、あるいは資金がない国。いくつかの国が補償を試みたが大失敗だった。

2つ目は、レイプが紛争の兵器として使われたという証拠があるにもかかわらず、その事実を認めようとせずに否定している国である。私たちはこのような国にも呼びかけていかないとならない。

Q. 日本について第二次世界大戦での慰安婦の問題があるが、十分な補償がされていると思うか？

A. 医師：慰安婦問題について私たちは両国の政治的な成熟とこの問題について対話を続け、平和へといたる解決策を見つける力を信頼している。すでに両国がこの問題に取り組んでいるのだから

ら、これは私たちが介入するケースではない。両国は過去に何かが起きたことを認め、解決策を模索している。

Q. この記者会見に参加するにあたり、『女を修理する男』をもう一度観た。そして再度、あなたの国の未来を導こうとする言葉に感動した。大変辛い目に遭った女性たちの勇気について、どう思うか？

A. 医師：私は常にコンゴの女性たちから勇気をもらっている。そしてこの勇気は、行く先々どこでも見られる。あれほどの苦しみを味わったにもかかわらず、女性らにはレジリアンス、立ち直る力、自分自身だけでなく自分の子どもや家族、コミュニティの世話をする力があるからである。その勇気がコンゴを再建させると信じている。私たちがケアした女性たちは、コミュニティの真のリーダーとなっている。彼女たちは社会の真の変化の担い手であり、痛みを力に変えることができる。

Q. 日本のレイプに関する法律は 130 年以上前に制定されてから変わっていない。今年、ある女性ジャーナリストが、行政幹部から性暴力を受けたと提訴した。その行政組織（長崎市）は謝罪せず、暴力を認めていない。あなたは自伝で、診察する医師の行為は神聖なものだと考えていたために、「医師が襲われるとは思ってもみなかった」と書いている。彼女のケースは、取材中の被害であり「国民に必要な情報を届ける仕事をしていて、記者の仕事は守られるべきものと思っていた」ので、あなたの感じ方に似ていた。しかしその彼女は被害に遭ってしまい、落ち込んでいる。この女性にメッセージを頂けないか。あるいは性暴力を否認する長崎市長に対するご意見はないか？

A. 医師：このようなことは世界各地で起きているため、残念なことである。そのために私は、共同議長を努めている G7 の諮問委員会において、女性を保護する法律を G7 内のみならず世界中で整備することに努力した。女性が男性と対等だとみなされていない国は世界中どこにでもある。つまり私たちは家父長制のシステムにおいて、私たち全員の責任だと考えている。女性は 100 年間、闘ってきた。第二次世界大戦後、戦場で亡くなった多くの男性たちの代わりに女性はきちんと仕事ができることを証明し、自分たちの権利のために闘ってきた。そして多くの権利を獲得した。しかし今日、女性が男性と対等の立場にはまだ到達していない。女性が男性と対等とみなされている国はただの一つもない。

この家父長制システムを長続きさせているものは沈黙である。性暴力を受けた女性は沈黙を余儀なくされている。なぜなら、レイプをした人間ではなく、レイプされた人が恥を抱えなければならぬからである。告発するのではなく、口をつぐむことを強いられている。その女性ジャーナリストのように、沈黙を破った女性は指弾され、セカンドレイプを受ける場合がままある。1 度目はセクハラや性暴力の被害を受けたことで、そして 2 度目はそれを告発したことで辱めを受けることを意味する。この女性ジャーナリストに対して、私のメッセージは「あきらめるな、あ

あなたは正しい、闘い続けなさい」である。世界は全員の力で変わるのではなく、正しいことをしていると信念をもって行動している個人によって変わるのだから。

Q. ノーベル平和賞の受賞以来、あなたが注力し続けていることは何か。あなたの達成してきたことは。ノーベル平和賞受賞によって何が変わったか。

A. 医師：私が注力し闘い続けていることは、正義と平和の獲得だ。正義なしに平和は実現できない。私たちの国は、正義を犠牲に平和を獲得しようとしている。私はコンゴで起こったことに対し補償を10年間求めてきた。グローバル基金の立ち上げは、その成果である。これによって女性たちに対し補償を提供することができる。

Q. コンゴ政府はあなたの活動に支援的かどうか？

A. 医師：現時点でコンゴ政府からの支援はわずかである。新大統領と初めて1週間前に面会した。実際に起こったことを共有したが、前向きな感触を得た。新しい政府が積極的であることを願っている。前政権の時は消極的だったが、よくなると期待して見守っている。

今日の午後、JICAの理事長と面会し、パンジ病院内に中核的研修拠点を設立することを話し合う予定だ。この拠点は、医師や精神科医、そして先ほど言及した4つの柱に関連する人々を要請するための施設である。イラクやその他支援が必要な地域にパンジ病院の医師を派遣したい。パンジ病院のようなワンストップ・センターを各地に拡大したい。パンジには必要なインフラもありスキルも提供できる。日本政府とも支援について話し合う。

Q. 地域による違いがあるが、アフリカでは女性器切除が大きな問題だ。あなたの考えは。

A. 医師：もちろん地域による違いはある。男性は女性をモノとみなしている。男女の間の支配関係が重要な問題である。ブルキナファソでは法律的には違法だが女性器切除が行われ、肉体的のみならず精神的にも深い傷を負わせている。彼女たちには弁護士を手配し法的に闘えるよう支援している。

資料2. 東京大学における講演（全文日本語訳）

「平和・正義の実現と女性の人権」

東京大学総長閣下、未来ビジョン研究センター長閣下、コンゴの性暴力と紛争を考える会のみなさま、学術関係者のみなさま、ご来賓のみなさま、親愛なる学生のみなさま、お集まりのみなさま。まずは東京大学に感謝を申し上げます。みなさまとともに大学という知の学府で、平和と正義、女性の権利について共有することができ、大変うれしく思っております。未来ビジョン研究センターにも感謝申し上げます。多くのイニシアティブが未来のために取られ、グローバルな形を取っていることを大変うれしく思います。「誰ひとり取り残さない」を実現して始めて、世界はより良くなるのです。

今日は私がとても大切にしているテーマ、私の人生をその闘いにあてているテーマについて東京大学で話すことができ大変な喜びです。そのテーマとは正義と平和、女性の権利です。平和と正義は切っても切れない相互依存した概念で、相互にお互いを強化させるものです。正義のない平和はなく、平和と正義なくして女性の権利の尊重はかないません。1948年の世界人権宣言の前文には、『人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義および平和の基礎である』と書かれています。この宣言後も人権保護のための国際基準が多く採択されました。特に女性は積極的に意識改革と法整備を勝ち取り、基本的自由を手に入れてきました。そのおかげで20世紀の後半は、世界中で女性の権利が飛躍的に前進した時期でもありました。

ご列席のみなさま、少し前までは女性は投票権を持たず、仕事をするとも自分の財産を持つことも許されず、後見人が父親から夫に譲られるような時代でした。戦争で男性たちは一世代丸々戦闘で倒れ、あるいは負傷しました。戦後はその中で女性が勇気と価値を示し、ジェンダー間の関係も固定したのではなく、むしろ変化し、変わることができることを示してきました。

こうして徐々に変化は起こっていきましたが、まだ平等には至っていません。女性は徐々に仕事上の責任ある地位に就くようになり、金銭的自立を得て、自分の身体を自分で自由にすることができるようになり、企業の社長に選ばれるようになり、ついには国家元首に選出されるようになりました。これらの変化は男性支配のパラダイムを根底から覆し、平等と相互尊重に基づく包摂的な観念を包含するようになりました。世界各地で女性と男性の関係の顕著な変化は、家族関係においても社会全体にも見られ、人間社会の発展や経済成長、そして先進的民主主義社会の構築の大きな要因となってきました。

しかし、ここ数十年の目覚ましい前進は、まだまだ脆弱です。国際人道法や人権はあらゆる大陸で常に踏みにじられています。2019年にあってもあらゆる権利が、そして特に女性の権利、性と生殖に関する権利が侵害されています。例えば避妊権の侵害等です。これは私たちの文明の忌むべき後退であり、20世紀得られた最も大きな退歩です。

私は国連決議 2467 の採択のための協議の際、国連安保理にいました。何週間も何時間も性と生殖に関する権利について議論していたことに驚きました。すでに確立されていると思われる権利について話していたためです。ですが、後退してしまってはなりません。愚かしいのは、私たちの基本的権利や自由の後退が、現在のナショナリズムやポピュリズムの台頭という不安な状況の中で、堂々と地位を得ていることです。この下方修正は、かつて先進的な国だった国の指導者の、男性優位の言葉や、時代と逆行する政策にはっきり現れています。また、恐怖をまき散らすことで、自己を認めさせる方法しか知らない、強いといわれている男たちのすべてによって示されているのです。女性の権利が侵されるという今の後退の傾向を見て、私たちは昨日得た権利も今日再び確認しなければ、明日は堅固にならないと認識させられます。この認識は世界全体に言えることです。女性は私たちが望む平等をなかなか獲得することができません。紛争下の暴力、特に私の出身地である、コンゴ民主共和国の東部での暴力は、平和なときに社会の中にまた家庭の中に存在している差別、悪習、暴力が強調された結果、生まれているのです。

ブカヴは南キヴ州の州都で、私はそこにパンジ病院と基金を 20 年前に建てました。ブカヴは残念ながらレイプの中心地と呼ばれています。20 年以上前から私たちに課された経済紛争から、戦争の兵器として、また恐怖を植え付ける戦略として、レイプが私たちの地域で初めて使われるようになりました。これらの野蛮な行為は生活の基盤を壊し、家族関係を壊し、社会の経済の基盤を破壊し、共同体全体に恐怖を植え付け、服従を余儀なくさせます。あるいは逃げ去らざるを得なくしているのです。その後、地方の指導者や多国籍企業に遠隔操作されている民兵たちが自由に入り込み、私たちの地方の豊かな鉱物資源や天然資源を独占しているのです。この経済紛争が治安と政治の不安の根本原因であり、600 万人以上の命を奪っています。未来ビジョン研究センター長も言われたとおり、第二次大戦後の最大の悲劇を生んでいるのです。400 万人以上の人々が住む地を追われ、難民・避難民となっています。5 年の間、6 か月以上 1 か所にいることができなかつた人々に私は会いました。一つの場所に逃げても武装勢力に追い出されて、また次の所へ行かなければいけません。だからこそ収穫もできないのです。そのような避難民のその後がどうなるか、私たちが容易に想像できるでしょう。

また、何十万人の女性が性暴力に遭っています。パンジ病院で治療している人たちは氷山の一角にすぎません。この暴力のサイクルは、残念ながら今も続いています。パンジ病院では女性の身体におよぼされた、残酷で非人間的な下劣な行為の結果を治療し続けています。ここ 25 年の間パンジ病院と基金では、生存者とその共同体のための包括的なケアを行っています。被害に遭っているのは個人だけではなく、共同体も被害に遭っているのです。1999 年以来、10 万人近くの患者を治療し、5 万 5000 人の性暴力の生存者を治療してきましたが、4 万 5000 人は非常に深刻な婦人病に悩んでいます。例えば泌尿器や生殖器のフィスチュラ等です。先進国では多くの場合、理想的な産婦人科治療によってこれらの疾患はもう存在していないような疾患ですが、紛争下の脆弱な国ではまだ存在しています。性器脱等もみられます。

暴力はあらゆる年齢の女性におよんでいます。非常に多くの女性が苦しんでいます。私は赤ちゃんも手術しました。いちばん若い女性は 6 か月の赤ちゃんです。大人によってレイプされたのです。そのために内臓が完全に破壊されています。また、高齢者では 80 歳以上の女性もいました。毎日、パンジ病院には平均 10 人の性暴力の被害者が運び込まれます。

ワンストップ・センターのような、患者の異なるニーズに一つの場所で応える仕組みが徐々に作られています。この制度ですと被害を受けた女性たちは一度だけ自分の経験を語れば、それで済みます。そうでなければ、一つの科へ行って話をし、また次へ行けば、そこでも話をしなければいけません。それは追加のトラウマを生み、被害者はそのようなことを続けることができません。トラウマのために、次の科に行ってくださいと言われても行けないのです。ですから、ワンストップ・センターによって一つの場所で包括的に対応することができるようにしました。ワンストップ・センターでは本人のニーズに合った、個々人に対応したサポートを受けることができます。肉体的ケア、精神的ケア、医療ケアも受けることができます。また、経済、社会復帰のためのサポート、無料での司法へのアクセスも可能です。毎日、患者のレジリエンスと力強さに私たちは驚き、感動しています。

この包括的サポートにより、まず被害者の心理的回復に努めます。それは性暴力を受けた人たち、それも人々の前で数人からレイプされ、性器に拷問を受けた人たちにとって、心理的に治療を受入れる状況にならなければ、治療もできないからです。まず心理的に回復して始めて、医療的な治療ができるようになります。時には複雑な手術をしなければなりません。中には結腸瘻造設術をしなければならない場合もあります。そのようにして回復していきます。

その後その女性達は新たな能力を身に付け、付加価値を身に付け、共同体に再び復帰するのです。共同体にとっても、彼女が付加価値をもたらすことで恩恵を受けます。性暴力の被害者の非常に大きな苦しみがか力に変わっていくのをサポートすることができて私たちもうれしいです。四つの分野のケアを受けることにより、共同体のリーダーになり、共同体に変化をもたらす因子になっていくわけです。そして自分や自分の子どもの権利を守るだけでなく、すべての人の権利と尊厳を擁護する人になることを見て、私たちも感動するのです。

すべての人、特に女性と少女が教育と保健の恩恵を受けられるようにするべきです。教育を受けて自立すれば、人生の中で性暴力や暴力の犠牲になる可能性は少なくなるからです。先ほど持続可能な開発目標（SDGs）と言われましたけれども、女性たちがこのような包括的ケアを受けることで、SDGs の五つの目標を達成できるようになることがわかりました。おぞましい状況や非人道的な状況を経験した人たちすべてが、このような包括的サポートを受けることができるようにしていく必要があります。これは人間の権利なのです。

本当に最悪の事態を体験した女性たちは、再び生きる気力を持つようになります。その勇気と能力に私たちは日々励まされて仕事に向かい、また闘いを続けようと決意するのです。

しかし私たちは被害者の第 2 世代を治療し始めました。レイプで生まれた子どもが、またティーンエージャーのときにレイプされる。そのときに手術室だけで解決は得られないことに気が付きました。女性は 2 回目も運ばれてくるのです。残念ながら、私たちはレイプから生まれた子どもたちがまたレイプされるのを目の当たりにしました。それで私たちは、病院から出て、世界を回り、世論に状況の深刻さを知らせ、被害者の権利を擁護し、暴力の根本原因と闘う必要性を訴えるようになりました。その根本原因とは、不処罰です。暴行をしても罪に問われない。また汚職があります。そして紛争下の不法な鉱物資源取引があります。残念ながら、そのような鉱物資源は私たちのポケットに入っている製品に使われていますが、罪を裁くことは出来ていません。一部の情報源によれば、世界のコルタンの 80 パーセントは、この紛争地から採掘されているとのこと。そこでは女性の身体が戦場となっています。私たち皆がポケットに入れている、この鉱物資源管理をめぐる、女性がその争いの被害者となっているのです。ですから、私たちには責任があると思います。日々その状況を変えていかなければいけません。私たちの携帯電話が、クリーンな携帯電話であるかどうかを確認して持つことが重要です。私たちの持っている携帯電話やコンピューター等は必要なもので、それが悪いわけではありません。しかし、沈黙が問題です。沈黙自体が罪になるのです。

私たちはアドボカシーをまず当然自国で始めました。自国の当局へのアドボカシーを始めました。その後世界中に広げました。世界中で性暴力の被害者が同じような苦しみを経験しているからです。一つの場所で行われているだけの問題ではなく、あらゆる場所で同じような戦争の戦略が使われているということが、早い段階でわかりました。

これは単純な人道的危機ではありません。私たち人類の危機なのです。だからこそ私たちは考えなくてはなりません。女性の身体を戦場に変えてしまうことが出来る時、これはただ人道に対する危機として解決するわけにはいきません。私たち人類の苦しみなのです。私たちは責任をとらなければなりません。ボスニア、ルワンダ、スーダンでも民族浄化の方法としてレイプが使われてきました。21 世紀になっても、ナイジェリア、イラク、シリアでは奴隷市場で女性が売られています。これはまさに国際社会、人類の恥です。そして私たち人類に疑問を呈するのです。コロンビアやコンゴ民主共和国では、低俗な経済的利益のために、あるいはコカインの生産、金やコルタンなどの鉱物資源の不法な採掘のために、暴力がまん延しています。そこでは女性や子どもが第一の犠牲者です。女性に対する大規模な性暴力が繰り返されないためにも、私たちはアドボカシーを行い、男女の平等や正義と平和を訴えているのです。私たちは信じています。平等によって、正義によって、司法によって、世界の女性の権利は守られると信じています。それらが平和への扉なのです。

ご列席のみなさま、世界女性会議の北京宣言および行動綱領の採択から 25 年が経ちました。ジェンダー不平等は残念ながら過去の話ではありません。現在進行中の話です。女性はまだ男性と平等ではありません。フランスが議長を務めた G7 で、私はジェンダー平等諮問委員会の共同委員

長を務める栄誉に浴しました。さまざまな著名人で女性の権利にコミットしているかたがたと、ジェンダー平等のための法律に関するグッドプラクティス事例を 79 件特定しました。世界中のすべての大陸の議員が採択した法律です。彼らとともに 1 年間を通して作業をおこないました。そしてジェンダー平等に向けた四つの軸を基にした法的枠組みの導入を提案しました。

まず第 1 はジェンダーに基づく暴力に終止符を打つことです。ジェンダーに基づく暴力は、ジェンダーの不平等を継続させている一要素です。

第 2 は、教育と保健医療への権利を皆に確保することです。地域によっては女性は教育にアクセスできません。健康医療、特に生殖医療に関してアクセスできません。女性だからという理由からです。

第 3 は経済的エンパワメントを促進することです。多くの場所で女性は自分のビジネスをするために、いまだ夫に許しを得なければいけないのです。

最後に公共政策において、完全な男女平等を確保することです。例えばわが国の憲法は男女同数を謳っています。ですので、大臣や議員は男女同数でなければいけないのです。しかし、多くの国でこのような先進的な法律が存在しますが、ただそのようなイメージを与えるだけで、現実には公共政策の世界では女性はまだ取り残されています。

日本も含め、各国首脳は G7 のピアリッツパートナーシップにコミットしました。われわれの勧告を実施することを約束しています。女性の人権に関して、次回の G7 までに少なくとも一つだけでも先進的な法律を導入すること、また差別的な法律を削除するというコミットです。G7 のメンバーは最も豊かで最も先進的な国々ですが、そのような国でもまだ差別的な法律が残っています。従って G7 のジェンダー平等諮問委員会は、それぞれの国家元首が自国の法律を精査して、女性差別的な法律が撤廃され、反対に前進できるような法律を制定するよう提案しました。

もし世界で最も豊かな 7 カ国に、差別的な法律が残っているのであれば、地球で最も貧しい国がどうなのかということは考えるだけでも分かると思います。法律に基づく行動への呼び掛けは大変重要です。

しかし、最も重要なのは、法律や国際条約と世界中で女性が直面している現実のギャップを埋めることです。国際条約はすでにたくさん存在しており、これだけあれば平等に向かうような条約はもう要らないほどです。しかし、現在の女性が直面している現実は違います。不正や不処罰に対して具体的に闘わなければいけません。性暴力においては不正と不処罰が例外ではなく規範になってしまっています。

ご列席のみなさま、紛争下の性暴力の生存者に会うたびに、コロンビア出身だろうと、ウクライナ出身だろうと、イラク出身だろうと、彼女たちは国家と国際社会の意思を動員して、長年まん延している不処罰と闘ってほしいと強く要請してきます。不処罰は国レベルだろうと、国際レベルだろうとまん延しています。司法へのアクセスが不足していることや不処罰のせいで性暴力

は続いています。紛争が終わった地域でも暴力は続いています。性暴力が普通のものとなっ
てしまい、社会のがんのように転移し、不安定が残る地域で暴力は増幅しています。

そして必要なときにこの暴力をやめさせなかった人類社会には、彼女らの言葉に耳を傾け、ど
のようなことが起きたのか真実を語り、加害者を起訴し、裁く義務があります。そうすることによ
って彼女らに対する補償が可能となるのです。

武装勢力の司令官であったボスコ・ンタガンダに対する国際刑事裁判所（ICC）による有罪判
決を歓迎します。さまざまな罪で起訴されましたが、初めて ICC は性暴力を戦争犯罪と人道に対
する罪と認めました。ボスコ・ンタガンダは大量のレイプを組織しました。民兵たちは妊婦の腹
を裂きました。コンゴ民主共和国の東部で少女を性奴隷としました。この前例が紛争下のレイプ
のレッドラインになるように願います。国家がこのおぞましい犯罪の加害者を追及し、裁くこと
を促すように願います。

大量の遺体を埋めた穴の上や、真実と正義を否定した上にコンゴ民主共和国の平和は構築され
ません。もう 10 年も前になります。国連人権高等弁務官事務所はマッピング報告書を発表しまし
た。これは 1993 年から 2003 年のコンゴ民主共和国における深刻な人権侵害と国際人道法違反に
関する報告書です。この報告書は 617 件の国際犯罪を描き出したものです。この報告書の中には、
戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイドを構成する要素が書かれています。ぜひ大学関係者に
この報告書を読んでいただきたいと思います。国際司法の欠陥がわかります。これらの犯罪の中
には、女性が家族の前で生き埋めにされたことが書かれています。家族の前で叫んでいるのに、
その穴に埋められたということがありました。国連人権高等弁務官事務所の報告書に書かれてい
るのに、10 年間何もなされてきませんでした。617 件の犯罪があります。報告書を読んでいただ
きましたら、この犯罪の加害者はまだ権力の座にいたり、まだコンゴ民主共和国の軍にいたりす
ることがわかります。教会や家に人々を入れ放火して、貧しい人、少女、女性、子ども、老人を
殺したことが書かれています。マッピング報告書の推薦は、コンゴ民主共和国のための国際法廷
のような一時的司法メカニズムを推奨しています。それができなければ、特別混合法廷、真実委
員会の設立を提案しています。また再び罪を犯さないための保障プログラムを推奨しています。

私がお話ししているマッピング報告書の推薦の実施に向けて、現在は何もなされていません。
だからこそ、われわれはアドボカシーを行っているのです。ぜひサポートしてください。この報
告書が司法と正義、真実のために活用されるようにコミットしてください。正義と真実がコンゴ
民主共和国とアフリカ大湖地域の平和、ひいては世界の平和を構築するための不可欠な前提条件
です。例えば生きた女性をそのまま埋めたのに何の追及もされなかった。教会に人々を集めて、
生きたまま人々を焼き殺してしまったのに、その加害者を赤じゅうたんをひいて迎え入れている
限り、人権や国際人道法には何の意味もなくなってしまいます。

ご列席のみなさま、正義と司法は効果的な犯罪の抑止ツールであるだけでなく、被害者の治
癒のためにも根本的で重要なステップでもあります。多くの女性にとって正義と司法による裁き

が存在意義になっています。私は多くの女性と会いました。あなたは強姦されたけれども、あなたのせいではないと言ってもらえるだけでいいという女性が多くいました。司法が彼女こそが被害者だったと認める、それだけで良いのです。

しかし、その正義には、法的、および訴訟手続き上多くの障害があります。表明するための扉が開かれるのには多くの障害があります。勇気を持って告訴した女性の多くが、残念ながら償いを永遠に得られていないのです。そのため 2018 年ノーベル平和賞の共同受賞者であるナディア・ムラドさんとともに、生存者のためのグローバル基金の創立を呼びかけました。今月末、10月30日に設立されます。この革新的なメカニズムは生存者とそのニーズを中心に置いています。国内、および、国際司法の不足を埋めることを目的としています。責任を認めない国や地域に住む被害者のために、リハビリと個人や集団の社会再統合のプログラムやプロジェクトを通して、補償を提供するものです。また、国によっては補償したいけれども、技術的ないし金銭的なサポートを必要とする国があります。そういう国に住む被害者のための基金です。

ご列席のみなさま、性暴力には社会的・文化的な壁はありません。世界中で誰も私には関係ないと言えません。われわれすべてに関係する問題です。今、男性に平等と人間の尊厳の闘いにコミットしてもらおうよう呼びかけます。男性たちは家父長制度という有害な男性制から解放され、女性とともに皆の利益のためにコミットしてください。

ご列席のみなさま、私たちは未来と人類の資質を信頼し続けています。生存者の言葉が解放されることで、恥と烙印は被害者に対してではなく、加害者へと向けられるようになり、また、家父長制度の秩序に挑戦します。世界中の沈黙を破ろう運動や MeToo 運動等は、男性支配からのパラダイムシフトがすぐそこまで来ていることを示しています。それを皆でサポートして、男性もそれをサポートして、女性が沈黙を破れるようになれば、これらの過去のパラダイムを変えることができます。宿命などありません。より良くより正しい公平な社会を構築する道筋は存在します。すべての人の自己実現を可能とし、女性が男性と同じように尊厳を持ち、権利を享受できる社会の道は存在します。世界中の何千人もの女性の境遇に無関心でいてはなりません。G7 の国、フランスのような国でも、3 日に 1 人の女性が自分のパートナーに殺されています。あるいは女性として生まれたというだけで非人道的な扱いを強要されたりするのです。これはもう許せません。皆でノーと言いましょ。この非人道的な扱いにノーと言いましょ。男性も女性も連帯と協力をを行い、相互を敬う精神の下に結集しましょ。個人と集団レベル、ローカルとグローバルレベルで、性暴力のないより良い世界を構築するためです。この夢は実現可能です。一人ひとりが現実を変えるために貢献できます。本日からともに行動を取りましょ。女性とともに結集し、より尊厳のある、より公正で平和な世界のために行動しましょ。ご清聴ありがとうございました。

資料3. 広島における講演（全文日本語訳）

「グローバルな平和と正義をめざして」

松井市長ご来場のみなさま、まず初めに、1945年8月6日に起きた悲劇によって命や生活をなぎ倒され、破壊された死者、被爆者に敬意を表します。その日、広島市は核兵器という恐ろしい兵器のターゲットとなりました。そして核兵器は今日でも我々人類の生存、地球自体の生存までを脅かす兵器です。あらゆる人道の原則に反して、無差別に殺された、若い子どもから年配の人、その女性や男性たちの記憶に、心の底から敬意を表します。

第二次世界大戦のことを思い起こすと、「もう二度とそれを繰り返さない」というフレーズが連想されます。それは過去の過ちと悲惨な行為を繰り返してはいけないということを命じ、その責任を示しています。

「私の人間性はみなさまの人間性と切っても切り離せない」ものだということを、心の底から今日みなさんに伝えたいです。アフリカの言葉に「ウブントウ」という言葉があります。それは他人との関係をベースにした、団結の倫理を表すアフリカのヒューマニズムの哲学・考え方です。他人の人間性を認めることで、自動的にお互いを尊敬し合うという関係ができます。なぜならばその時点で、同じ運命の中に存在する相互依存に気づかされるからです。あなたが存在しているから私が存在できる。みなさまが負った傷は私にも響き、人間として私を深く動かすものです。

日本は類を見ないダイナミズムで、戦後、破壊された状態から立ち直り、今我々が知っているこの豊かな国になりました。しかし戦争のことを決して忘れてはいけません。私が常に理解に苦しむような惨事を繰り返さないためには忘れないことが不可欠です。

資料館を作り、平和記念公園をつくり、そして1949年には国会で広島を「平和都市」と名付け、広島市を平和主義の象徴にして、「二度と繰り返さない」というメッセージを発信するために国家レベルそして市町村レベルで行っている活動にも敬意を表します。平和というものは毎日、每秒、作られ、そして我々一人ひとりが平和の実践者になれるのです。

原爆投下から70年の2015年の平和祈念式典で、安倍総理は「我が国は唯一の戦争被爆国として…「核兵器のない世界」を実現する重要な使命があります。また、核兵器の非人道性を世代と国境を越えて広める務めがあります」と語りました。これは実は我々の存在自体に関する問いであり、今日でも現在性を持っています。冷戦終結後から世界の軍事費は倍になりました。2500以上の核兵器が今にでも発射できる状態にあります。大国は兵器を規制するような新たな動きに反対し、ときにはすでに存在する条約から撤退することもあります。核戦争のリスクは常にあります。このような「悪の塊」（広島市長もそう呼んでいる）が二度と繰り返されないために警戒が必要です。もしも、核兵器が再び使われたとしたら、それは人類最後の戦争になりえます。

現代社会の集団的安全保障のシステムは第二次世界大戦の後に作られたものです。国連憲章の採択、世界人権宣言、ジュネーブ諸条約は、多国間関係、暴力の禁止、人間の尊厳への敬意を基

にした新たな国家間の協力関係を作ること、第二次世界大戦の惨事後に人間性を取り戻そうとしていた世界の動きの象徴です。

人類の歴史の中で、現在ほど、人々がお互いを必要としている時代はないとも言えるぐらいなのに、この21世紀前半で恐ろしいほどに、これまで獲得してきた人間社会の進歩に逆行して、ナショナリズムとポピュリズムが再び台頭しています。これまで築かれてきた多国間関係がこの時代の流れの中で激しく試されて、人権と国際人道法が毎日のように、すべての大陸で、無視されています。

他人を恐れる気持ちを煽るために、無知や無関心を育み、自らの非民主主義的な計画を推し進めようとするポピュリストを止める壁に我々がならなければいけません。目を開けなければいけません。抵抗もせずにどんどん陥ってしまいそうな、この知覚が麻痺したような状態から抜け出さなければいけません。

テロや気候変動、移民や難民といった現代社会の課題に対するグローバルな解決策を見つける必要性が、我々を集団安全保障のシステムを見直すように導いてくれるでしょう。それによって国家の主権の誤った解釈に損なわれることなく、非暴力と寛容の原則と、対話や交渉を使って解決を見つけるという原則に導かれるべきです。

広島に落とされた原子爆弾に使われたウランは当時ベルギーの植民地だったコンゴのカタンガという地域で採掘されたものでした。現在でも、アフリカを中心に存在する政治的、安全保障の不安定性は国際的な平和と安全を脅かしています。コンゴ民主共和国の鉱物の違法採掘には今でも大きな危険性があり、それをコントロール・規制することに努めなければいけません。この重要な課題は第一にコンゴ政府の責任を浮き彫りにすると同時に、国際社会全体の責任をもあらわしています。なぜならば、世界平和はコンゴ民主共和国での平和と安定と、透明性があり、信頼できる鉱物資源の貿易があってこそ得られるものだからです！

アフリカ大湖地域のコンゴ民主共和国の東部で、婦人科医として働くなかで、私はもう一つの恐ろしい兵器を目の当たりにしました。激しい暴力をともなうレイプ、それは戦争の兵器として、または支配の手段として、テロリズムの戦略として使われる性暴力です。

強引で屈辱的な性行為の重大さやそれによって被害者が経験する後遺症を過小評価してはいけません。紛争下でのレイプを性的行為と混同してはいけません。紛争地で激しい暴力とともに行われるレイプとは、人間をモノのようにして扱い、支配するような、人間性を否定する行為です。このような残酷な行為は動物社会でも見つけることはできません。

紛争戦略としてのレイプは被害者の人間としての身分を否定し、そして生活、家族、コミュニティの母体となっている「女性たち」の破壊を目的としています。コンゴ東部で戦争の兵器として使われるレイプは、大規模で、組織的で、整然と行われるというのが特徴です。

一つの村で、24時間の間に何十人もの、時には何百人もの女性や若い子どもがレイプされます。それは集団で、公の場で、家族の目の前で行われます。ときには被害者の父親、パートナー、兄

弟、息子たちも、武器をむけられ、愛する娘、妻、姉妹に対して恐ろしい行為をするように強制されることもあります。このようにレイプを公の場で行うことで、直接の被害者以外に間接的な被害者を作り出し、被害を拡大しています。

このようなレイプは組織的に行われ、各武装勢力にそれぞれの決まったやり方があります。それはどの傷がどの武装勢力によるものなのか判別ができるぐらいに、被害者の体に各グループの印が残されます。レイプと同時に拷問が行われ、多くの被害者は性奴隷となってしまいます。

年齢も性別も関係なく、レイプします。赤ちゃんも年配者もレイプされます。そして大半の直接的な被害者は女性であるのは事実ですが、男性も性暴力の対象となっています。このような大規模な民間人を狙ったレイプを見て分かることは、計画され、上下関係の中で上の人、その地域を支配する政府軍、もしくは国家に属さない武装勢力からの指示があって行われているということです。

この新たな戦争の兵器は従来の兵器に比べて安価であるにもかかわらず同じような被害をもたらすという意味で非常に効果的な兵器です。大量の難民・避難民を生み出し、人口を減らし、社会の組織そのものを破壊し、被害に遭ったコミュニティの経済力をも破壊します。

第 1 に、性暴力は集団で公の場で行われ、多くの場合は女性の体に対する拷問やその他の残酷で屈辱的な暴力をとまなうため、レイプを恐れて逃れようとする人々が難民・避難民となります。あるいは、被害者はコミュニティから追い出され、男性たちは家族を守れなかった恥から村を去り、無名で暮らせるところを探し求めます。安全な場所を求めて、女性たちと子どもたちも故郷を離れることとなります。これによって地方から都市部への大規模な人口移動が起こり、畑は放置されます。そこに兵士たちが入って土地を支配し、コンゴの東部にたくさんある天然資源を独占します。我々が使っている電子機器の中にあるタンタルもその資源の一つです。

第 2 に、人口の減少には 3 つの原因があります。1 つ目はさまざまな道具、物質、ときにはやけどを用いた女性の生殖器の破壊が行われること、2 つ目は性病、特にクラミジアや淋病を感染させ、それによって不妊をもたらすこと、3 つ目は HIV エイズを感染させること。これによって女性たちはウィルスの病原巣となり、病気は横にも縦にも世代を超えて広がり、コミュニティ全体をゆっくりと殺します。

第 3 に、社会組織の破壊は、自尊心と個人および集団のアイデンティティを壊す、屈辱的で人間性を失わせるような行為によって引き起こされ、最終的には社会的一体性を破壊します。このような社会への影響は、レイプから生まれる子どもがいることによって拡大されます。そのような子どもたちの親子関係がはつきりされることは稀で、「蛇の子」として扱われコミュニティから追い出されます。家族がないままに育つその子どもたちは暴力の悪循環を永続させる可能性をもった新しい世代となります。

第 4 に、経済力の破壊は、被害に遭ったコミュニティの所有物と農作物の略奪、家の破壊、兵士や「戦争の支配者」による天然資源と鉱物の違法な採掘によって引き起こされます。

この4つの被害によって、人々は深刻な貧困状態に陥り、社会の一体性が壊され、組織化する力を失い、逃げるか支配されるかという選択肢しか残らなくなります。

紛争の戦略として使われるレイプは恐ろしい兵器だということを理解していただけたと思います。その被害は短期、中期、そして長期的であり、世代を超えます。残念なことに、この兵器は世界中のいくつもの紛争で使用され、女性や子どもたちが、男性たちの間で生まれた暴力の大きな代価を支払わされています。

パンジ病院の中で、我々は包括的な治療モデルを開発しました。それは患者を中心として、4つの柱のもとで行われます。医療、精神ケア、社会経済支援、法的支援です。このモデルをワンストップ・センターと呼び、生存者が自尊心を取り戻し、苦しみを力へと変えていけるように、支援をしています。このような包括的なケアが、回復のための生存者の人権として認められるよう訴えます。

しかし、2世代目の被害者、レイプから生まれた子どもがまたレイプされるという現実を見たときに、暴力の傷を治療するだけでは不十分だということが分かり、男女平等、正義、そして平和を訴える活動を始めました。性暴力を予防するもっとも重要な手段の一つは教育です。それは幼児期から始まり、大人になるまで続けられる必要があります。子どもたちには若い時からポジティブな男性性を教え、信念を持って、決意を持って、そして協調性を持って、男女の平等を守れるような新しい世代を育てる必要があります。

性暴力を止めるためのもう一つの手段は、不処罰をなくすことです。これらの残酷な罪はきちんと処罰されるまで続きます。恥や汚名を被害者から加害者に移さなければいけません。

20年で600万人以上の死者、400万人の難民・避難民そして、何十万人もの性暴力被害者がいる中で、暴力と悲しみを逃れた家族は一つもありません。統治国家と正義をなくしては、長期的な平和はこないと信じています。

これらの理由から、我々は1993年から2003年までの間にコンゴ民主共和国で行われた深刻な人権侵害と国際法違反を記した、国連人権高等弁務官事務所によるマッピング報告書の提案が実施されるように訴えています。この報告書が9年前に発表されてから、提案は実行されないままです。617件もの戦争犯罪、人道に対する罪、虐殺の罪を記録し、治安部門改革としてコンゴのための国際裁判所や特別法廷の設立と、再発防止策を提案しました。

我々が描く正義とは抑止だけを用いたものではなく、補償も含まれています。罪があったことを社会が認めるということは、被害者の回復において非常に大切なことです。それはさまざまな形をとることがあります。象徴的なものかもしれませんし、被害者の社会復帰のための支援かもしれませんし、学校の建設、被害に遭った地域のための保健所を作ることや広島にあるような記念碑を作ることにも含まれます。

このようなビジョンを描きながら、ノーベル平和賞の共同受賞者であるナディア・ムラド氏と一緒に紛争下の性暴力被害者のためのグローバル基金を今月10月末に正式に設立します。暴力が

なくなるためには、長期的な平和と人権保護のために働きかける必要があります。すべての人が尊重され、居場所を見つけられるような世界を夢見ています。競争ではなく、協力があり、多国籍関係の中での対話がナショナリズムや内向的な考えや弱肉強食に勝り、各国が大量破壊兵器のための予算を教育や保健といった、人々の根本的なニーズにあてるような世界を夢見ています。

平和への道は可能であるだけでなく、この先、人類とこの地球の破滅を避けたければ、唯一の道でもあります。

戦争のない世界は絶対につくることができます。一緒に夢を見て、一緒に行動をしましょう。市民も政治を担う人も、市民社会の団体も、メディアも、核兵器のない、化学兵器のない、生物兵器のない、兵器としての性暴力のない世界を、人間の尊厳を再確認し、すべての人のために平等と自由を。歴史をみれば、国内でも国際レベルでも平和を作るには、これ以外に進むべき道はないということは学べます。

より良い世界、より平和な世界を作るために、一緒に立ち上がりましょう。

ありがとうございます。

【謝辞】

ムクウエゲ医師の来日にあたり、多くの方々にご協力いただきました。

＜講演会を主催・共催いただいた団体＞

東京大学未来ビジョン研究センター（IFI）、東京大学リーディング大学院社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム（GSDM）、NPO 開発教育協会（DEAR）、NGO ピースポート、ANT-Hiroshima、立命館大学

＜資金協力いただいた団体＞

三菱財団、庭野財団、高木仁三郎市民科学基金

＜講演会等の登壇者として貴重な論点を提示いただいた方々＞

五神真 東京大学総長、藤原帰一 東京大学未来ビジョン研究センター長、隈元美穂子 国連調査訓練研究所（UNITAR）持続可能な繁栄局長、松井一實 広島市長、川崎哲 ピースポート代表、渡部朋子 ANT-Hiroshima 理事長、仲谷善雄 立命館大学学長、上野隆三 立命館大学副学長

＜ボランティア・スタッフとして東大講演会を支えていただいた方々＞

伊東諒斗さん、岩岡由季子さん、勝田翔一郎さん、喜屋武水樹さん、沢木麻衣さん、清水元さん、下平めぐみさん、関根健次さん、名倉早都季さん、華井裕隆さん、藤井陽子さん、馬島亜蘭さん、溝端悠さん、邑田明美さん、村松智妃呂さん、八木亜紀子さん

＜広島訪問の実現を支えていただいた方々＞

ピースポート川崎哲さん、渡辺里香さん、ANT-Hiroshima 渡部朋子さん、渡部久仁子さん

＜立命館大学名誉博士号贈呈式・講演会を支えていただいた方々＞

松原洋子副学長、君島東彦教授、中上晶代さんをはじめとする立命館大学のみなさま

＜通訳としてご協力いただいた方々＞

フランス語通訳の高野勢子さん、大村裕子さんには、講演会・交流会を含め様々な会合でお力添えをいただき、大変お世話になりました。フランス語翻訳者の加藤かおりさんには記者会見の翻訳にお力添えをいただきました。

＜会合の実現にご尽力いただいた方々＞

安倍晋三総理との会合の実現には外務省総合政策局女性参画推進課のみなさま、JICA 北岡理事長との会合の実現には JICA フランス語アフリカ圏担当のみなさまにご尽力いただきました。

＜情報公開にご協力いただいた方々＞

NHK 道傳愛子さん、吉岡礼美さん、TBS 立山芽以子さんをはじめとする報道機関のみなさまには、記事や番組で取り上げていただきました。また、東大 TV の渡辺泰子様には、東大講演会のネット公開にご協力いただき、日本における認知を高める大きな力添えをいただきました。

<東京大学未来ビジョン研究センターのみなさま>

東京大学未来ビジョン研究センター長の藤原帰一教授には多大なるご理解とご支援をいただきました。事務局の石川由佳さん、今村真紀さん、塩塚優さん、佐藤多歌子さん、村上壽枝さん、カ徳裕子さんには、東大講演会のみならずムクウェゲ医師の来日・滞在にかかる膨大な事務手続きを支援いただきました。

<ASVCC スタッフ>

身内ではありますが、コンゴの紛争と性暴力の問題を解決するために日本からできる限りのことをしたいという強い問題意識を共有し、本プロジェクトを支えてくれたジャン＝クロード・マズワナ立命館大学教授、運営スタッフとして来日イベントを支えてくれた小島千晶さん、畑中昴淳さん、メディアとの膨大な企画調整を担当してくれた石崎百合子さん、大平和希子さん、ムクウェゲ医師の来日全体にかかるスケジュール調整を担当してくれた久留島啓さん、小坂井真季さん、そして、ASVCC ユースのみなさんに感謝申し上げます。

ここには書ききれないほど多くのみなさまのご尽力によって本プロジェクトは実現し、また、日本各地に情報を届けることができました。来日中のイベントに参加いただいたみなさま、さまざまな形でコンゴへの支援にご尽力いただいているみなさまに感謝申し上げます。

ありがとうございました。

コンゴの性暴力と紛争を考える会副代表 華井和代

【パンジ基金へのご寄付の御礼】

ムクウェゲ医師、及びパンジ基金への活動に対して、多くの皆様からご寄付を賜りました。本報告書では、許可をいただいた方のみお名前を記載させていただきます。

浅井健一様、岡晶子様、加古まゆみ様、加藤かおり様、京都ロータリークラブ様、善應寺・西島良祐様、柴田一輝様、長江直美様、町田様、松尾弥生様、溝口与理子様、横田光男様、吉田真様、吉田佳寿恵様、特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 様